

## 第15期（2019年7月1日～2020年6月30日）事業報告

第15期の事業報告は、以下のとおりである。

※「担当」は、理事/監事/ボランティアを記載した（敬称略）。

### （1）ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業

- ① ガラパゴス体験学習ツアーを実施：8月23日～9月1日 ビーチクリーン活動を2回（サンクリストバル島とサンタクルス島）ダーウィン研究所訪問なども行った。参加者7名。波形と奥野が同行した（東京都の視察を兼ねる）。
- ② 「ガラパゴス写真コンテスト2019」開催（9月）。応募作品数約35点。ガラパゴスの高校生（15才、16才）も応募。選考は、総会特別企画として、参加者の投票にて最優秀賞1点、優秀賞12点を決定。優秀賞5点に輝いたガラパゴスの高校生が所属する写真クラブに、カレンダーの収益の一部を寄付した。
- ③ 「ガラパゴスカレンダー2020」制作・頒布。写真コンテスト優秀賞作品を採用。11月下旬に500部納品、発送開始。寄附の特典として頒布260部、会員配布120部、進呈約90部（ダーウィン研究所10部、写真クラブ10部含む）。手元残約30部。担当：里見、飯崎、奥野
- ④ 旅行社ワールド航空サービスにて講演：9月、10月の2回。担当：清水、飯崎
- ⑤ 千寿桜小学校（10月）、元八王子東小学校（12月）、横山小学校（山形・2月）にて、奥野・里見が講演。
- ⑥ 東京都とチャールズ・ダーウィン財団の連携協定締結以外でも、ガラパゴスと小笠原の連携を支援。小笠原への視察（8月）や様々な団体との連携、11月の協定締結式への調整等を行う。担当：役員全員、赤間、高木、など
- ⑦ 駐日エクアドル大使より招待され、計3回大使公邸に伺い、エクアドル関係者と親交を深めた。担当：奥野

### （2）ガラパゴスに関する情報の収集および提供に係る事業

- ① 7月：衆議院環境委員会の国会議員（4名）視察のための事前レクチャーを行い、8月にツアーで現地滞在中、チャールズ・ダーウィン研究所および所長との会食に同行・同席した。担当：奥野
- ② 7月：（株）日本総合研究所から「オーバーツーリズム」に関するヒヤリング調査を受けた。その後、同名の著書を出版するとのことで、ガラパゴスに関する部分の監修を行った。担当：真板・奥野
- ③ テレビ番組の監修：日本テレビ「世界まる見え！」（10月）、テレビ朝日「ガリベンガーV」（3月）、日本テレビ「ZIP！」（4月）など。担当：奥野
- ④ 8月：朝日出版社からの依頼で企画の相談を数回受け情報を提供したが、その後連絡なし。担当：里見、奥野
- ⑤ 12月：「ガラパゴス植物ガイド」を1020部印刷・発行した。280部頒布済。担当：里見、清水、倉田、伊藤秀三、他。
- ⑥ 前年度より引き続き、経団連自然保護協議会のガラパゴス視察に向けた情報提供を行った。10月の視察の予定は台風で1月に延期となったが、1月19日～26日で実施され、奥野と赤間（通訳）が同行した。
- ⑦ 11月：日本経済新聞社の取材に協力・同行した。（新聞記事は1月26日発行）担当：波形、飯崎、奥野
- ⑧ 11月：ガラパゴス社会調査@コンセホ、市役所、国立公園局、防疫検疫局、漁協、島民、チャールズ・ダーウィン財団、フレンテ・インスラル（市民団体）など。担当：海津、飯崎、奥野
- ⑨ 1月～2月：大阪の国立民族学博物館にて開催された「朝枝利男の見たガラパゴス」展に際して情報提供した。博物館にも招待されたが、展示はコロナの影響で2月で終了となった。担当：伊藤秀三、奥野
- ⑩ ガラパゴスコーヒーについて、情報収集・提供した。担当：理事全員、高木、赤間、など
- ⑪ SNSによる情報発信：Facebook、twitterによるガラパゴスに関する情報の発信。ガラパゴスに関わる機関からの発信をシェアしたり、独自記事を発行したりして、約150記事を発信した。担当：飯崎、奥野
- ⑫ メールニュース（2回）、会報（12月、6月）の発行。担当：里見、飯崎、奥野
- ⑬ その他、メディアや個別の問い合わせ対応、随時。

### （3）生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業

特になし。

### （4）ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業

#### 1) 海鳥・海洋保全活動の支援

毎年チャールズ・ダーウィン財団がガラパゴス国立公園局と行っている海鳥3種（ペンギン、コバネウ、アホウドリ）の生態調査を支援しました。2019年度もペンギン基金より寄附があり、JAGAからの支援金と合わせて支援を送りました。

## 第15期（2019年7月1日～2020年6月30日）事業報告

た。また、海岸の清掃活動を行っているサンタクルス島の市民団体フレンテ・インスラルの活動も支援すると共に、8月のツアーではビーチでの海洋漂着プラスティックを拾う活動を共に行いました。

### 2) ガラパゴスの植生保全支援

当期 JAGA が支援・実施した植生保全プロジェクトは2つあります。1つは BESS フォレストクラブからの支援を受けて行ったサンタクルス島の「スカレシアの森」の再生事業です。キク科固有種スカレシアの森林は、自生地の半分以上が農地と重なることもあり、本来の森の面積の1%にまで減少しています。チャールズ・ダーウィン財団と共に農家と協働で農地内の外来種の駆除や植林を行う事業を立ち上げ、農家の協力者を決定しました。2020年度も継続します。もう1つの植生保全事業は、国土緑化機構「緑の募金」から助成を受けたサンクリストバル島の居住区における島民参加型の植林と環境教育・啓発事業です。元々森だった居住区の土地に在来種の森を再生させ、外来種の防除を行うと共に、学校などでも固有種や在来種の植林をして（写真）、島民に対して開けた森として、啓発や環境教育の生きた教材とする活動です。



### 3) チャールズ・ダーウィン研究所図書室デジタル化支援

かねてより必要性が高く支援の要請も強かつたダーウィン研究所の図書室資料のデジタル化事業ですが、東京の前田建設工業株式会社の支援により、今後5ヶ年の継続した事業が決定しました。世界でこの研究所にしかない貴重な資料が、デジタル化されて、世界中からアクセスできるようになることを目指しています。

（保全事業の詳細や成果は、会報で報告します。）

### （5）ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業

新型コロナウィルスの感染拡大防止措置としてロックダウンされたガラパゴスでは、観光がストップして経済的に困窮する家庭が続出したことから、6月下旬、社会的に弱い立場にある約250家族に食料を届けた。事業計画にはなかった支援であったが、保全当事者である島民支援ということで、理事全員の賛成を得て、またチャールズ・ダーウィン財団、および島民NGO フレンテ・インスラルの全面協力もあって実現した。

### （6）調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業

特になし

### （7）ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業

7月に東京都と業務委託契約を結び、東京都とチャールズ・ダーウィン財団との連携協定締結に向けて、会議や打合せ、現地との連絡と調整、都職員の方の現地視察のコーディネート・同行（8月）、協定締結式コーディネート・同行（11月）、記念品手配、報告書のまとめなど協定の締結のための一連の業務を行った。また8月には奥野が小笠原父島を訪問し、副村長や小笠原自然文化研究所代表らと面談をした。なお、新型コロナウィルスの感染拡大の影響で、2020年度に予定されていた東京都の事業（パネル展）は中止となった。

### （8）その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

■日本エクアドル外交関係樹立100周年記念事業実行委員会の委員として、奥野が2018年～2019年に行われた記念事業の報告書をまとめた（協力：飯崎）。在京・在エクアドルの大使館や外務省などの公的機関、エクアドル本土で活動する団体や個人、日本で活動するエクアドル関連の団体・企業・個人との繋がりができ、JAGA のガラパゴスの専門機関としての認知が進んだ。また、コロナ禍の食料支援についてもこの繋がりの中から実施することができた。

■助成金の申請：ガラパゴスと小笠原の若者交流事業を継続するため、助成金を探し、説明会などを行った。地球環境基金への申請は不採択となった。国土緑化機構「緑の募金」への2020年度事業への申請は採択され、「スカレシアの森の再生事業」を継続して行うことになった。

■その他ファンドレイジングのための活動。

【謝意】当期活動したボランティア：赤間亜希、高木一輝、竹ノ内理絵、飯崎晶子、他。および理事・監事全員。（敬称略・五十音順）